
ヘンテコな食虫植物たち！

須崎杏子

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

ヘンテコな食虫植物たち！

【Nコード】

N4622D

【作者名】

須崎杏子

【あらすじ】

ある、地球のどこかにグリーンランドというところがありました。世界中の植物達が集まるところ。ヘンテコな食虫植物もいます。そして、植物達と会話できるたった一人の男性は、相談室を開きました。そこからどんな悩みがくるのでしょうか……。

ヘンテコな食虫植物たち！

第一回おたより 消化不良のハエトリソウ

ここは植物達が集まる楽園。グリーンランドという単純な名前の楽園です。

そこにいる植物達のへんてこな悩みを解決するところがあります。おや。また、届きましたね。では、よんでいきましょう。

消化不良です。

わしはまだまだ生きていたが、消化不良で安心してハエを食べられぬわい。

こういふばあいはどうすればいいんじゃないのう？

名前：ハエ・取り、食らう自由気ままな老人

ちょっと、生活ぶりを見させてもらいましょう。

「お、とまったな！ こうなればわしの勝ちは確定したものじゃ！」
ハエトリソウはすぐ、葉を閉じる。

（しまった。罠か！）
ハエは逃げようとするが、ものすごく早く閉じるので逃げられない。

パックン。

「ゴフツ！ やはり年じゃのう。うおっほー！」

このハエトリソウは長年、かれずに生き抜いた老化した食虫植物らしいです。

「バーカ」

ハエはそういふととび立ち、逃げていったのです。

へんてこな食虫植物たち！

「消化不良かろう？」

もうほとんど折れかけている葉をみていったのです。

「がふっ」

せきをすると折れかかっていた葉とともにねばあくとした液体を吐き出しました。

「ばかじやのう〜」

よこから声がある。同年のはえとり ソウだった。名前が普通ではないのは、やはり名前も必要だからだ。

「なんじやとお〜？」

売られた喧嘩は買っべし。お互いに噛み付きあつ。

「ちよつと、ちよつと！」

「ごめんじや」

左の方から声があった。それは自分より遅くでてきたハエトHAETORISOUリソウだった。

「ハエ！ 早くきてくれ！」

「いんや、わしの方がさきじや」

（誰がくるかあ〜！）

そういつて、ハエは逃げる。

「ななな、なんてことをするのじやあ〜！」

「こつちのせりふじや、このたわけ！」

かみ付き合うたびに、横から唾液（溶解液）があふれでる。したにポタポタ落ちるとシューーと音が聞こえるがなんの音かはわからない。

「あたりがきたのじや！」

そういつて葉を閉じた。

パツクン

「ごぶっごぶ！ ひやが、はへふと、いんでいまっ！」

ぶじ、食べ終えたら、またせきをする。そしておえつと嘔吐する。

「うぎゅー！」

ゴロゴロゴロとお腹がなる。

「ふんぎゃー！」

「暴飲暴食のせいじゃな、ふおふおふおふおふお！」
お腹いたい、腹痛が起きたと訴えかける目。

「ばーか」

「ぐえっ!？」

老人にはさぞ似合う声。

「老人はここまでかのう……。暴飲暴食したせいかのう」
って本当にしていたんかいな!!

「まあ、大丈夫かい？」

「ばばあ、視聴者からいいハエトリソウだと思われたからそんな
ふうにいったんじゃろ？」

「きい！ こんのたわけじじい！ なぜわしの思考がわかった!？」

「いやいやと長年の付き合いをしていたからじゃのう。まるわかり
じゃー!!」

こうして消化不良のハエトリソウはいっそう平和にぐらしまし
たと、と。

「ぜったい平和じゃないと思うぞ」

「かわいそうだな」

「まあ、あいつは鈍感だからな」

「だれですか？ 私のうわさをしているのは……？」

「わしは、平和ではないのじゃよ!」

第二回おたより 飽きたモウセンゴケ

…… 前回のお便りでは、ハエトリソウが可哀想でしたね。ツブプ。
え、次はモウセンゴケからのおたよりです。

題名：ハエはあきた…

私は最近ハエは飽き飽きしました。けど、私がいるところは、臭いのでハエがたくさん飛んでいます。そいつらを捕食していますが、うわさに聞くモンシロチョウとかを食べてみたいな。

名前：毛の先つちよは溶解液のかたまり

どうにもこうにもなれませんね。とりあえず、生活ぶりをみよう。

5

ヘンテコな食虫植物たち！

「あゝもう！ ハエばかりいて飽き飽きしてきましたね！！」

モウセンゴケですか……。 なにかがまぎってます

「ちよ、なに、その言い方（笑ってる）」
なんかまともですね……

「べつにいーじゃない？ ところで、ハエ飽きたね！」

（え！？俺のこと飽きたの！？）

「モンシロチョウとか食べてみたいな」

どこからその情報仕入れたのですか……？

「ようーし！ それなら俺を食べてみよ！」

「だめです！ そんなのとけちゃうじゃない！！」

「俺の心配より自分の心配！？ てか俺も解けちゃうんじゃないか
！？」

ヘンテコな食虫植物たち！

テンション高い種ですね、モンセンゴケは。

「まあ、ラフレシアとかゆー花のせいでハエしかとんでこないしね」
「ねえ、そういえばアンタはモンシロチョウ食べたことがありますか？」

「H A H A H A H A、俺は食べたことがある」
「貴様ー！！」

……なんかグロい音が聞こえるのは気のせいですね

「……あ！ けっこううまい！」

横にいたモウセンゴケがいなくなってますよ……。

「お前モンシロチョウ食べたことがあるんですね。どんな味がしました？ ってどこにいったの」

自分で食べたのにわからないんですか？

「歩けたらいいのになあ。人間に植えられたらいいのに」

「h u h a h a h a h a！ そうだな！ 無理な話だけどな！」

「お、お前生き返ったのか！？」

「俺は不死身い〜！」

すごい技……

「それ以上笑うのなら、もう一度死にたいですか？」

「その敬語で死ねと言われたら怖い！」

「私にかなうものはなし！」

「ぷっ」

ぷっ

「それ以上笑うな！」

「バカのお前に笑っちゃ悪いのか？」

「バカはお前です」

「やいバーカバーカ」

「やいバーカアホボケカs、いやチリ！」

「ええ！？ 俺ってゴミ以下の存在！？」

……低レベルな喧嘩ですね……。

ヘンテコな食虫植物たち！

「でもな、『ちりもつもれば山になる』ってしってるか!？」

「ちりもつもれば山になるってことは、動けない役立たずの奴が山となった時の言葉なんです!！」

「ええ!?!? そうだったの!?!？」

「ええ!?!? 信じた!?!？」

「ああ! そうなんですつて!！」

「ええ!?!? そっちも信じてる!?!！」

「だいたいハエって飽き飽きしててこまっちゃうんです!！」

「まだその話題引きずってた!！」

「そっいいながら食べてるのはだれ?！」

「腹も減っては戦ができぬっていう言葉知ってるですよね!！」

「あ、そっか」

「納得しないでください!！」

「ところでハエ飽きたって手紙送りました?！」

「なんでお前の事情を書かなくちゃいけないんだよ(小さい声で)」「ひt……じゃなくて、植物にかかせたんですか!?!？」

「えい!！」

「ヘア!(エコー)」「

ウル マン!?!？」

「ちがう! こんな感じですよ!ヘア!！」

馬鹿!?!？」

「バカかてめ!！」

「バカじゃない、つてかなにしてたんだよ」

「ぐー」

いびき!?!？」

「ありや? なんだこいつ」

「新顔ですかね?！」

「お前ら……。バカじゃなかったらなんなんだ……」

まともな意見です。

「「なんだと!?!?」「」

……。袋叩きにされている……。
「痛い……。ていうか自分を見直しなさい」
「……もういう言葉はありません……。」
「自分？」
「見直せ？」

手紙を贈ってきたモウセンゴケのほうでは

「なにするんですか？」
「こつちが聞きたいぐらいだよ！」
「あなたが先に殴ったんだろ！？」
「貴様の悪口が悪い」
「なんだとー！？」

ボカスカボカスカ

「ぜえ、ぜえ、ぜえ」
「なにするんですか。私はけんかは強いんだよ」
「まじで強い……。生命力が……」
「ゴキブリみたいに言うなー！！」

「……」

そしてもうひとつのモウセンゴケは

「うぜえんだよ！ その歌歌うなってっつてんだろー！！」
「……いい加減にしろよ」

ヘンテコな食虫植物たち！

ボカン！

『痛いよう………』

『ざまあみる』

(うわぁ、あのころの俺ってさいてー)

「そしてうるさい。馬鹿どもが」

「お前の人生見直せよ」

「そうだよ？ 人生見直せよ」

「俺のセリフパクんな！」

「へっへーい」

「ぐすん」

ないたー！？

「お腹すいた。ハエ飽きたけど」

今頃それを思い出した！？

「あーもう寝よう」

寝るの！？

「ハエですがー、先ほどクモがいましたよ」

「よし、とってこい！！」

「バーカ」

ないてたのに立ち直り早！？

「お腹すいたね………」

あっ！ 電気がなくな……。

ブチッ

「あー、もう切れちゃいましたか。これを贈ってきたモウセンゴケにはモンシロチョウを百匹分送りましょう。それでは」

ヘンテコな食虫植物たち！

ヘンテコな食虫植物たち！

店内にはいり、ほかのお手紙をみる。実はテレビ中継のためにこんなことをしているのだとか。

最終回 夢遊病のウツボカズラ

……前回のおたよりでモンシロチョウを百匹分あげました。それにしても敬語とか混ざってましたね。

えー、次のおたよりです。

題名：夢遊病に困ってます。

私はいつもいつも夢遊病のせいで虫じゃないものまで食べてしまいます。もう死んじゃうかもしれないのでどうかしてください。

名前：落とし穴

はいはい。それはどうにもできないのでみてみましょうか。

「おい！ ウツボカズ！ また夢遊病のせいで俺は寝られなかったぞ！」

「い、ごめん」

「おい！ ウツボカズ！ 俺の葉っぱくっただろー」

「あれはわざとじゃないって」

「あらー。いじめですか。しかたないですよー」

「俺の葉が変だってみんなに言われる始末なんだぞ！」

「ぐすん」

「あらら、泣いちゃいました。かわいそうですね。」

ヘンテコな食虫植物たち！

ヘンテコな食虫植物たち！

「ぷーん」

「わぁーい、ハエだーww ってなめてんのか」

「ご、ごめんね」

立場逆になったー！！

「だいたいな、僕の13歳の誕生日なんだからそれぐらい祝っても
らわなきや」

「13歳？」

「そう！」

ちよつとまっってください。えつと

「13歳なら夢遊病治るんじゃないかな」

「え」

はぁ……自覚してください
プチッ

今回は意外と早くできましたね。

次回はどんなおたよりってこれが最終話！！？

でもこんな短すぎるやつはいやなので私の昔話を……。

「ねえ、父さん。これなに？」

「それはねえ、食虫植物だよ」

「しゅくちゅーしよくぶつ？」

「うん。虫を食べちゃうんだ」

「怖いよ。虫食べちゃうの？」

「そっだよ。たべて生きるの」

「ぷーん」

私はそんなもの知らなかったですからね。

「じゃあ父さん、さき家かえってって！」

「おっ」

ヘンテコな食虫植物たち！

「うつ。心臓病が……」

「植物が喋った！」

「しいー！！」

なんとも不思議で、心細い感じがした。（教科書の言葉だね、これ）

「とにかく、ここにまたくるから！」

「え〜。じゃあクモとってきてー」

「うんわかったー！」

そのあとえぐく食べる姿にぞっとしていたけどね……。

さて、これは最終おたよりでした。

たった三回で終わるとは作者はめんどくさがりなんですね。でわでわ。

ヘンテコな食虫植物たち！

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4622d/>

ヘンテコな食虫植物たち！

2009年3月24日10時28分発行